

高知憲法速報

№123 2007. 8. 16
 発行：高知憲法会議事務局
 088-872-3406
 編集人 事務局 徳弘嘉孝

8・15「戦争を語り継ぐつどい」に100人

今年の終戦記念日の集会は「高知女性九条の会」が主催して高知城ホール3階で開かれました。

「女性九条の会」の梶田順子さんは開会の挨拶で、ニューギニアで戦死した叔父への思いに触れながら、憲法改悪の動き、集団的自衛権見直しなどを許さない運動を呼びかけました。

近藤久子さんは、大崎二郎「きみあーゆーあ」、滝いく子「美しい誓」、茨木のり子「私が一番きれいだったとき」の三つの詩と、井上ひさし翻訳の「子どもに伝える日本国憲法9条」を朗読しました。

元教員の矢野時子さんは、40年間の教師生活を振り返り、「語り継ぐことは、なくなった生徒たちに対する供養でもある」と述べました。吾北の小学校で教えた青年学校の若者に、「先生どうして死なないかんか、わしゃいやじゃ」といわれて立ち尽くしたこと、そしてその青年たちが全員死んだと知らされ、いまや墓参りしようにも跡継ぎもいなくなっている痛苦の体験を語りました。深夜に帯屋町や中央公園で寝ている人の群れを観て昭和3年の経済恐慌を思い出し、本当のことが言えなかった治安維持法下の生活についても語りました。

退婦教の石川美代子さんが書き残した、軍事教育の実態や高知空襲についての手記を西岡瑠璃子さんが朗読しました。

会場からは、原水爆禁止世界大会に参加した大学生の決意と報告、経験を聞いて語り継ぎたいとの決意を表明した青年教師の発言、高知での反戦活動の実態についての発言、「大人はそのとき何をしたのか」と言われたいよう頑張りたいと決意を表明した戦死した父を持つ元教師の発言などが続きました。

森田啓子さんが閉会挨拶。参加者は100人でした。

「こうち九条の会全県交流会」19組織38人

8月5日「こうち九条の会」は5回目の全県交流会を高知市で開き19組織から38人が参加しました。

谷脇事務局長は基調報告で、参院選の結果を「流動的で積極的要素を含む情勢」とし、高知の世論調査でも九条を変える必要があるかないかの意見はいまや2：6で「変えるべきでない」が優勢でありこれは私たちの運動が反映していると述べました。また5月に成立した国民投票法は18項目もの付帯決議

署名集約状況 8/16現在

会員団体名	署名目標	到達
県労連	20,000	3,976
県教組		1,133
高教組	10,000	221
私学教組		30
自治労連		1,778
県国公		2,145
福祉保育労	3,000	70
平和委員会	5,000	702
民青同盟		
新婦人	20,000	14,055
商工団体連合会	15,000	16,494
自由法曹団		
地域人権連		
高退協		100
治維同盟		
梅原憲作		
共産党県委員会	40,000	2,454
医労連		77
民医連		12,502
学習協		
山下道子法律事務所		
退教協		750
退婦教		3,340
農民組合		
その他		732
街頭署名		3,892
小計		64,451
母連		11,449
うち重複集約(報告)分		9,269
有権者過半数目標/到達合計	331,000	66,631
こうち九条の会街頭署名		5,290

がつき法律として大問題であるとして、その内容について説明しました。自衛隊情報保全隊、テロ特措法、集団的自衛権見直し、憲法審査会などの情勢についても問題提起しました。

土佐清水、大月、いの、野市、香美市、福井、秦西など各地の九条の会から、活動報告と今後の運動の進め方について発言がありました。立て看板、署名運動、映画会、ニュース発行などそれぞれの地域団体の実情を踏まえて、多様な活動が取り組まれています。これからが正念場ともいえるだけに、憲法を学習しながら、粘り強く展望を持って活動していく決意を固めあいました。